


# 子ども景観バスツアーのしおり

子ども景観バスツアーにご参加いただき、ありがとうございます。

今日は、このしおりにある順番で旭川の景観をご紹介します。

 のマークがある場所ではバスから降りて見学します。

その他はバスの中からご覧ください。



# ～旭川の景観豆知識 1～

## ○景観とは？

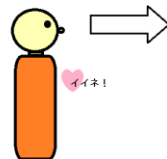
景観とは、そこにある景色と、それを私たちが見ることに  
よって成立するものです。

その土地に元からある自然環境<sup>かんきょう</sup>と、そのまちの歴史や産  
業が積み重なってできたまち並みに、私たちの生活の様子が  
見えることによって、そのまちの個性ある景観がつけられ  
ます。

良い景観とは、見ている人が「素敵<sup>すてき</sup>だなあ」「気持ちいい  
なあ」と思える景観のことです。

良い景観をつくるには、今ある良い景観を守り、育て、また良いものを新しくつくるのが大切です。

この、良い景観を「守り」「育て」「つくる」ための人々の活動を「景観づくり」といいます。




## ○旭川市景観賞

旭川の豊かな自然やまちの歴史・文化をふまえ、特に良い景観づくりを行った「もの」や「活動<sup>ひょうしゅう</sup>」を表彰する制度  
です。平成2年度に、旭川市が生まれて100年を記念して「旭川市都市景観賞」として始められました。平成14年  
には、旭川の景観は都市(街のなか)だけでなく、農村や山林にもあることから「旭川市景観賞」と名前を変えまし  
た。

平成26年度に行われた第6回では、「市民活動交流センター CoCoDe<sup>ココデ</sup>」、「旧岡田邸<sup>てい</sup>」、「旭川駅」が景観賞を、  
「5・7小路ふらりーと」、「六花亭旭川豊岡店」、「7条緑道<sup>しょうれい</sup>」が景観奨励賞を受賞しています。

# 見学場所の説明 1

 ←このマークがある場所では車から降りて見学します。

## 1 旭川グランドホテル(第3回都市景観賞) 6条通9丁目

建物の低い部分のレンガのかべは、隣にある市役所の建物のレンガのかべに合わせてつくられました。建物の周りや道路に植えられた緑と調和して、落ち着いたふんいきを感じられる場所になっています。このレンガをつかっているところの屋根と窓のデザインは、大正9年に旭川市内で初めてできたホテル(北海ホテル)を再現しています。



←レンガのかべと歩道の様子

## 2 7条緑道(第6回旭川市景観奨励賞) 7条通5~8丁目

昭和48年につくられた道路で、車道の上に歩道があるという市内でもめずらしい形の道路です。歩道には木をたくさん植え、ベンチやちょうこくを並べ、市民のいこいの場にもなっています。

冬にはドーム型のイルミネーションをみることができます。



←冬のイルミネーションの様子

## ～旭川の景観豆知識 2～

### ○旭川八景

旭川には、まちの自然や歴史、産業、文化の積み重ねによってつくられた素晴らしい景観がたくさんあります。

旭川八景は、市民のみなさんの<sup>おうぼ</sup>応募や投票をもとに、平成9年に選ばれました。

旭川を代表する景観として、市民や観光客のみなさんに親しまれています。



旭橋



嵐山と嵐山からの眺望  
ちようぼう



外国樹種見本林  
がいこくじゆしゆみほんりん



神居古潭  
かむいこたん



旧偕行社  
きゆうかいこうしゃ

あさひかわしちようこくびじゆつかん  
(旭川市彫刻美術館)



ダイヤモンドダスト



常磐公園



平和通買物公園

### 3 常磐公園(旭川八景)

大正5年に開園した公園で、今年で開園100年になりました。

園内にはニレ、ドロ、トドマツ、ポプラの並木、白鳥の池、千鳥ヶ池の二つの池や中央花だんなどがあり、豊かな緑と水辺の景色を楽しめます。

また、道立美術館のほか、図書館、公会堂、常磐館内の文学資料館があり、公園内には野外ちょうこくなどが多く置かれ、文化芸術にも関わりの深い場所です。



### 4 旭橋(旭川八景)

明治25年に、今と同じ場所に「<sup>たかす</sup>鷹栖橋」という橋がかけられました。その後、明治37年に初代の「旭橋」がつくられ、現在の「旭橋」は昭和7年に完成した3代目のものです。ドイツから輸入した鉄でつくられていて、美しいアーチの形がとくちょうです。750以上の橋がある旭川の代表的な橋で、たくさんの人に親しまれ、愛されています。





### 5 アーバンスクエア八条さくや町けいかんきょうてい(景観協定) 8条通11~12丁目

平成20年にけいかんきょうてい景観協定を結びました。この場所では、良い景観づくりのためにみんなでルールを決めて建物を建てています。例えば、外の壁の色は白、グレー、茶、ベージュなどにしなければならなかったり、家のまわりに木などを植えることになってなっています。このルールを守って、みんなが住宅を建てているので、良い景観をつくっています。



### 6 松岡邸(第1回都市景観賞) 6条通13丁目

大正14年から昭和2年にかけて、木材会社の事務所と社長の家として建てられました。木の板でできたかべがとくちょうてきな建物です。むかしの日本の家によく見られた形の建物と、ヨーロッパ風の形の建物が合わさっています。この家のとなりには、会社の事務所として使われていた建物ものこっています。「木工のまち」「家具のまち」としての旭川の歴史を感じさせる建物です。



### 7 旧岡田邸(第6回旭川市景観賞) 5条通16丁目

昭和8年に、しゅぞうかいしゃ酒造会社の社長の家として建てられました。和風のデザインと洋風のデザインが合わさっていることがとくちょうで、当時としてはとてもこうかな建物でした。

この建物をこわそうとしたとき、ぜひ建物を残したいという人たちが様々な活動を行いました。その結果、建物はこわされず、今はおそば屋さんとして利用されています。



### 8 高砂酒造(第5回旭川市景観賞) 宮下通17丁目

高砂酒造という会社の事務所や倉庫として、明治40年代に建てられた建物です。昔、旭川は酒づくりがさかんでした。そのころの歴史を今に残す代表的な建物です。お店の前にある大きなのれんが、建物の歴史的なふんいきをさらに高めています。



# ～旭川の景観豆知識 3～

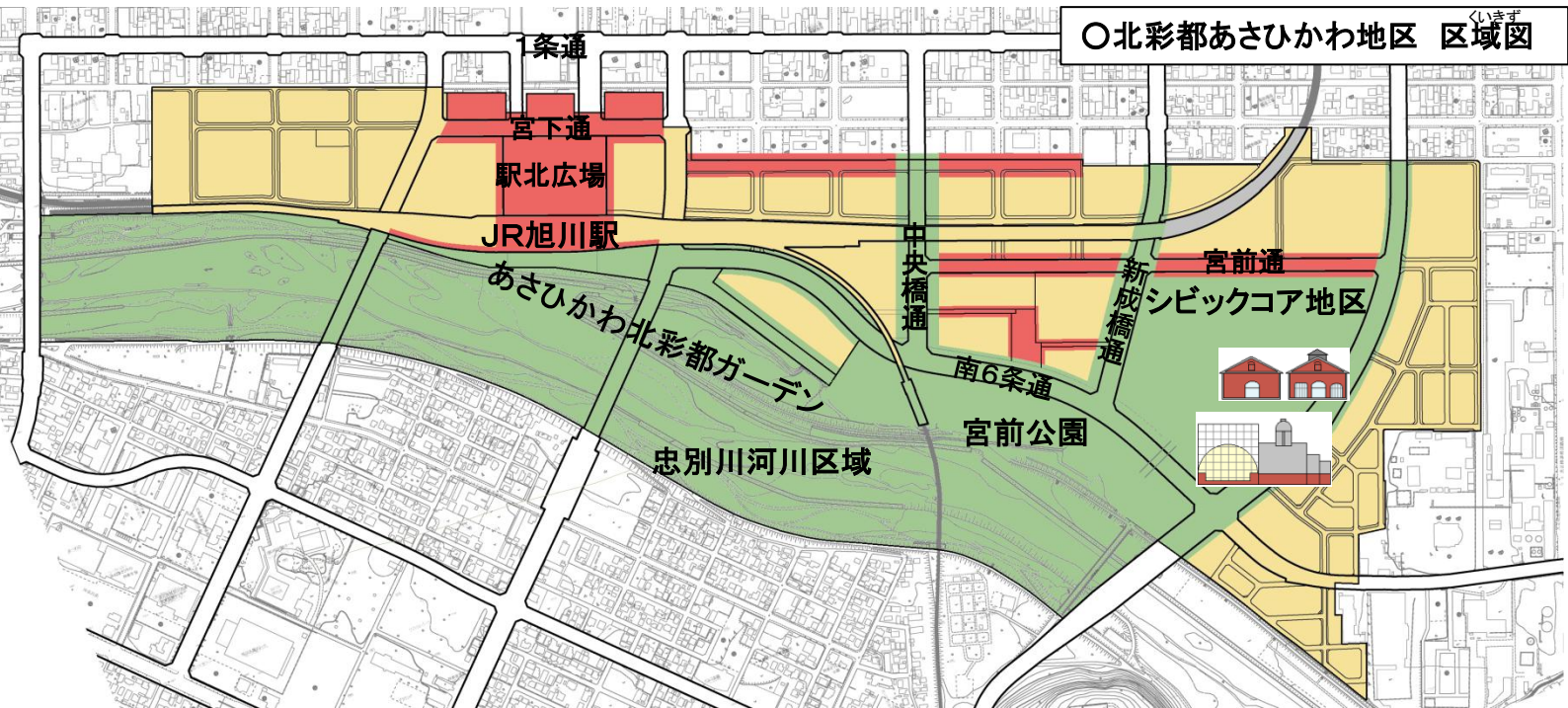
## ○北彩都あさひかわ地区の景観づくり

北彩都あさひかわ地区は、新しい旭川の玄関口としてふさわしい景観づくりを進めています。

- ・忠別川の自然環境を、都市に引き込む(中央橋通・新成橋通沿いの南北方向)
- ・まちの東西方向の人が歩く道路は、歩いて楽しいにぎわいのある通りにする(区域図の赤いところ)

「旭川市景観計画」では、北彩都あさひかわ地区を、特に気をつけて景観づくりをする必要がある場所「景観計画重点区域」に指定しています。

## ○北彩都あさひかわ地区 区域図





### 9 科学館からのながめ(北彩都あさひかわ) 宮前1条3丁目

平成8年からおよそ20年もの時間をかけて、鉄道会社の土地だった場所に、線路を高くつくりかえたり、新しく道路や建物、橋をつくったりして、新しいまちをつくりました。それが「北彩都あさひかわ」です。新しいJR旭川駅の建物を中心として、もともとあった駅前のにぎやかなふんいきと、忠別川の自然の両方が感じられる場所になりました。

科学館の屋上からは、「北彩都あさひかわ」の全体が見られます。



### 10 市民活動交流センター CoCoDe(第6回旭川市景観賞)

宮前1条3丁目

明治31年に旭川に初めて鉄道が開通したときに、汽車を修理するための工場として明治32年に建てられたものです。昔の鉄道の工場として今も残っているものとしては、もっとも古いもののひとつとされています。100年以上たった古い建物の見た目は変えずに、新しい技術で使いやすく直して、「市民活動交流センター」として生まれ変わりました。

このレンガのできた建物の見た目は、この地区の景観づくりの中心になっています。



### 11 The Sun蔵人(第1回都市景観賞) 神楽岡8条1丁目

市内中心部にあった、明治40年代に建築された<sup>しゅぞうがいしや</sup>酒造会社の石でできた倉庫をばらばらにして、使われていた約3000個もの<sup>びえいなんせき</sup>美瑛軟石を積み上げて再生した建物です。当時のすがたを残して建てられた建物は、初めはビアホールとして、現在はおかし屋さんとして利用されています。

駐車場の緑や看板、照明などを、近くにある神楽岡公園などの自然にあわせてつくってあります。プラタナス並木道の入口にあって、良いふんいきを作り出している建物です。

<sup>びえいなんせき</sup>※美瑛軟石・・・大雪山の噴火によってできた石で、明治から大正時代に建築や土木工事の材料として使われていました。



### 12 神楽岡通線(第1回優良景観認定施設)

神楽岡8条1丁目～緑が丘3条4丁目

神楽岡公園から環状線まで、約2.8kmにわたりプラタナスが植えられています。大きく成長したプラタナスのえだや葉っぱが車道の真上をおおいつくし、「緑のトンネル」と言われるような見事な並木路をつくっています。

以前は通り沿いに教会やレストランが建ち並び、地元では「ロマンティック街道」とも呼ばれています。プラタナス並木としては国内最大級とも言われている、すがすがしいふんいきの通りです。



### 13 就実の丘 西神楽就実地区

旭川の西神楽地区のうち、旭川空港の南東に広がる丘陵地は「就実の丘」と呼ばれ、雑誌などで紹介されました。広々とした丘陵地からは旭川市外や大雪山連峰・十勝岳連峰をながめることができます。また周辺の畑作地は美しい農村景観を作り出しています。

(周辺は農地ですので、見学するときには立ち入らないようにしてください。)

※丘陵地…低い山が続いている地形。



### 14 旭川空港グリーンポート 東神楽町2線16号

旭川空港の中にある公園です。平成11年に完成しました。

気持ちの良い芝でおおわれた小高い丘の上では、空港に発着する飛行機を間近でみるすることができます。

旭川空港を広くつくり直す工事をしたときに、建物や駐車場など全体の景観のことを考えてつくったり、空港からの大雪山連峰のながめをじゃましていた看板を取り除いたことが評価されて、第4回優良景観認定施設ゆうりょうけいかんにんていしせつに選ばれています。



### 15 上8号線周辺 東旭川町忠和

旭川市と東川町との境界近くで、田んぼなどが多い地域です。この地域のひとたちが協力し合って、道路にそってペチュニアやマリーゴールドなどを約2.0kmにわたって植えています。

周りの田園風景でんえんふうけいと一緒に、良い景観をつくりだしています。





### 16 北彩都ガーデン 宮前2条2丁目

旭川市の中心部でたくさんの自然を感じられる場所で、昨年の7月31日にグランドオープンしました。大池の横にあるガーデンセンターでは、講習会やイベントなどもやっています。

旭川駅南側から宮前公園に向かって、いろいろなテーマをもった空間が広がっています。



### 17 旭川駅(第6回旭川市景観賞) 宮下通8丁目

全国的にもめずらしい、川のすぐそばにある駅です。忠別川の自然のことを良く考えてつくられています。大きなガラス窓のようなかべにしたことで、外からホームにあるとちょうてきな柱が見えますし、中からは買物公園や大雪山・十勝岳連峰れんぽうの山なみと忠別川の自然を良く見ることができます。旭川の新しい入口としてみりよくのある駅です。



■ お問い合わせ先

旭川市地域振興部都市計画課地域計画景観係  
〒070-8525 旭川市6条通10丁目第三庁舎3階  
TEL0166-25-9704